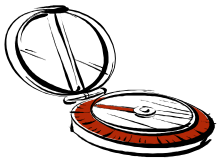
山行報告



◆ 立山（雄山）・剱岳山行

日　程　　9月16日（金）～9月19日（月）【夜行バス利用】
参加者　　L：山内　SL：原田　山口博　井上　吉井　山口好　　6名

山行記録

1日目	コース	JR加古川　⇒　大阪着　　バス　⇒　　富山駅前
	時　間	19:41発　　20:29着　　21:40発　　4:55着
2日目	コース	富山駅 ⇒ ケーブル⇒室堂～一の越 ～ 雄山 ～ 大汝山～富士ノ折立～真砂岳～ 別山乗越～剱山御前小舎～　剱山荘
	時　間	5:20（急）　7:10　　8:30　　9:35　　10:25　　11:30　　12:00　　13:00 14:00　　14:20　　15:10
3日目	コース	剱山荘～一服剱～前剱～剱岳山頂～前剱～剱山荘　～剱山荘発～剱山御前小舎 ～雷鳥平～みくりが池温泉～バスターミナル　⇒　立山駅　⇒　富山駅　　バス発
	時　間	6:05　　6:30　　7:20　　9:05　　10:20　　11:10　　11:40　　12:55 15:05　　14:45（55）　16:00　16:30発　　18:08　　19:20　　23:00
4日目	コース	大阪梅田バスターミナル⇒自宅
	時　間	6:40着

【感想文】　　原田

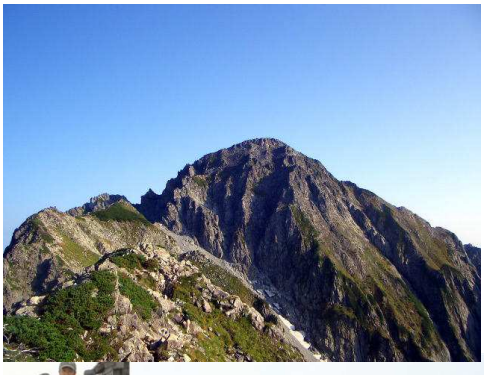
立山行きの車内はほとんどがリュックを背負った人たちで満席であった。3月の雪解けで一部バスの振り替えで山に近づくにつれて、稜線がはっきりとしてきた。

ケーブルに乗り継いで、美女平の気温は9℃でナナカマドの実も高度を増すにつれて、鮮やかな朱色で、我々を歓迎してくれているかのようだ。

雄山へ向かう石畳の左右には、チングルマ、ミヤマアキノキリンソウ、ヤマハハコ、コバイケソウ、ヨツバシオガマなどは既に終わりお告げ、わずかにウサギギクが黄色い花を咲かせていた。

一ノ越で小休憩し、ガレ場の急登を超えると、雄山に着いた。風の強い神社の岩場には、

イワギキョウの青色が力強く生えていた。安全を祈願し、お払いを済ますと、鹿島槍、五竜が遠くにその威容さをほこっていた。



強風の中を行くと、眼下には黒部湖、やや右手には針ノ木岳が見えた。富士ノ折立のガレ場は相変わらず風が強く、昼飯は大きな岩場で風をしのいで食べた。別山には登頂せず迂回し、剱山御前小舎のあたりまで来ると、前剱が覆いかぶさるように、その威容さを誇っていた。

少し行くと、目的地の剱山荘が赤銅色の屋根を剱岳のふもとに小さく見せていた。

風呂があります、水洗トイレ、廊下は夜間照明、至れり尽くせりの小屋でのビールは格別である。明日の晴天を夢見ておやすみ。

320名の宿泊であったが、80名の朝食をすませてまず一服剱で前剱を望み、前剱では、一服剱を振り返り、さあ、本命の剱岳へと目をやる。荒々しい岩肌は過去に多くの人命を傷つけ、深くえぐられた谷は命を奪い、この沢のどこかに幻の滝があるそうだ。

山口好子さんがリタイアし5名で登頂することにした。カニノタテバイ

では 70 人の順番待ちで、１０ｍのほとんど垂直の岩を１分で２名の間隔であった。
　頂上に着いた時はガスがかかっていて何もみえなかった。記念写真だけ済ますと、カニノヨコバイや、梯子やら、岩を巻いて前剱で振り返ってみると、２度もその威容さに圧倒された。
　晴れていたら、北アルプス、遠くは富士山が見えるらしい。
　剱沢小屋からは、雷鳥沢のテント場をめざして下山、地獄谷のルートでみくりが池温泉
で疲れをとり、安全に山行ができたことに感謝して乾杯。
　このたびは、まずまずの天候に恵まれ、全員が無事下山できたことに感謝しています。

剱岳の絶壁をカニの横ばいで・・スリル満点

◆　**小野アルプス**（紅山からユピカ温泉）

山行日：０５－９－２３（金）・・彼岸中日祝日　晴れ
参加者：Ｌ　砂川延　ＳＬ　今山　金島　西村　野々村　船津　舛賀　待場　吉井
　　山本正　渡邊　　一般・・・（ 大橋　小谷　山本敏）　　計 14 名
コース　ユピカ駐車場　9：00 集合　（車で移動）⇒　鴨池（女池）　9：20～
　　紅山 9：50（ロープ、カラビナを使用して紅岩での登下降トレーニング 11：40 まで）～小野富士 12：20（昼食）～アザメ峠 13：40～ユピカ温泉 15：30

【感想】　　金島

ザイル、シュリンゲ、カラビナ　名前は聞いたことはあっても、おおよそ私自身がこの道具を使うことがあるとは今まで思ったことは無かった。播州の山、小野アルプス縦走とこれらの道具の実地訓練が今日の山行目的。9 時に全員ユピカ温泉に集合する。最近建てられた施設のようで建物も新しく今日の山歩きの仕上げはこの温泉に浸って帰るのが予定。鴨池までは車に分乗し 14 名は紅山に向かって歩き始めた。緩やかな坂道にどんぐりなど落ちていて枯れ草を踏みしめながら歩く。のどかな初秋の山はとても気持ちいい。歩くことには少しづつ慣れてきているので今日の私は余裕を持って歩いているような気がする。40 分くらい山に入ったところで紅山が見えてきた。山というよりも赤膚の岩山で地中から噴出してきた溶岩が固まったように見える。この岩を登るという。高御位山の百間岩と似ているが傾斜はややこちらが急勾配気味、見るからに私を拒絶しているように見える。岩肌はごつごつして太陽に照らされ熱く焦げたような臭いもする。突起が多く足の掛け場はたくさんあり勇気を出して岩にしがみつく。絶対に下を振り向かないで必死で登り始めた。岩にまっすぐ向かって体を岩から離し 3 点支持と座学の時に学んだことを頭の中に繰り返しながらゆっくりと登る。岩の天井が見えてきた時「できたー」。額と脇にどっと汗がふきだしてきた。天井の岩の真ん中にザックを降ろしまず水を飲む。胸のドキドキが落ち着くと眼下には里が見え、山陽高速道路を行き交う自動車が小さく見える。高速道路のすぐ傍にこんな岩山があったとは知らなかった。14 名全員登り終えて本日の学習目的、ザイルを使っての岩山登下降トレーニング開始。砂川リーダー、今山さん達が 2 箇所の木にザイル固定完了。それぞれ用意してきた新品のシュリンゲを自分の上体にハーネス状に固定。小さいシュリンゲにカラビナを巻きつけ用意してもらったザイルに固定。物々しげではあ

るがこのロープに命を掛けるとなると真剣にならざるを得ない。カラビナを繰って岩の下に下りていく。恐る恐る手を離してみる。アッ、大丈夫、体はザイルにしっかり結ばれている。道具類のイメージは座学の時と実際に山で使ってみた時の感触とは違うものだなと思った。山本さんに　雄姿　を写真に収めてもらいカラビナを上部へ繰りながら登る。先ほど素手で上ってきた時よりも遥かに登りやすい。次、野々村さんと交代。山行計画にザイル使用訓練と知ってから私にできるかしらと憂鬱に今日を待ったのがうそみたい。終わった時には「面白かったかも・・・」しかしこのシーンだけは主人には絶対に話せない・・。全員トレーニングが終わり紅山を下る。昼食先のキスミ見晴らし台に向かって歩いた。9 月の日差しはまだまだ強いが風は本当に気持ち良い。12 時前見晴台に到着。はるか下を走る車を見ながら昼食を済ます。12 時 30 分出発。山を下り、山を登っていく。きのこがそこかしこに生えていて形のいい物、真っ白なもの、朽木にへばりつくように生えているのは黒くてゴムのタイヤのよう。道の両側にはこぼれるように萩が咲き、女郎花、桔梗、ススキ、葛　七草を数えながら山道を行く。遠い昔、この山中にひっそりと咲く花たちを旅する人たちは見たのだろうか。山上憶良の「秋の野に咲きたる花を指を折りかき数えれば七草の花」を思い出し一人感傷的になりながら歩く。ＮＴＴ無線中継所まで来た。広場になっていて桜の木がたくさん植えてあり里の近いことを感じる。残っているボトルの水をゆっくりと飲み皆さんと冗談などたたきながら十分に休憩。「あの丘をしゅるっと曲がればもう温泉や。」得意な舛賀さん流の励ましに後を追う。予定通り午後 3 時半ユピカ温泉に下山した。入浴の後は、シュリンゲ、カラビナをタオルでふき取りザックの底にそっと納めて帰途に着いた。今日は面白かった。完